

7.4 酸性雨調査

調査は、県内7地点において、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市、小田原市及び藤沢市が共同して実施した。雨水の酸性度（pH）や主要な汚染源を究明するための成分分析等について調査した。

1 調査地点と調査期間

地点	場所	調査期間
川崎	川崎市公害研究所	13年4月～14年3月, 14年4月～15年3月
横浜	横浜市環境科学研究所	〃
横須賀	横須賀市衛生試験所	〃
藤沢	藤沢市役所	〃
平塚	神奈川県環境科学センター	〃
相模原	相模原市役所	〃
小田原	小田原市役所	14年6月～15年3月

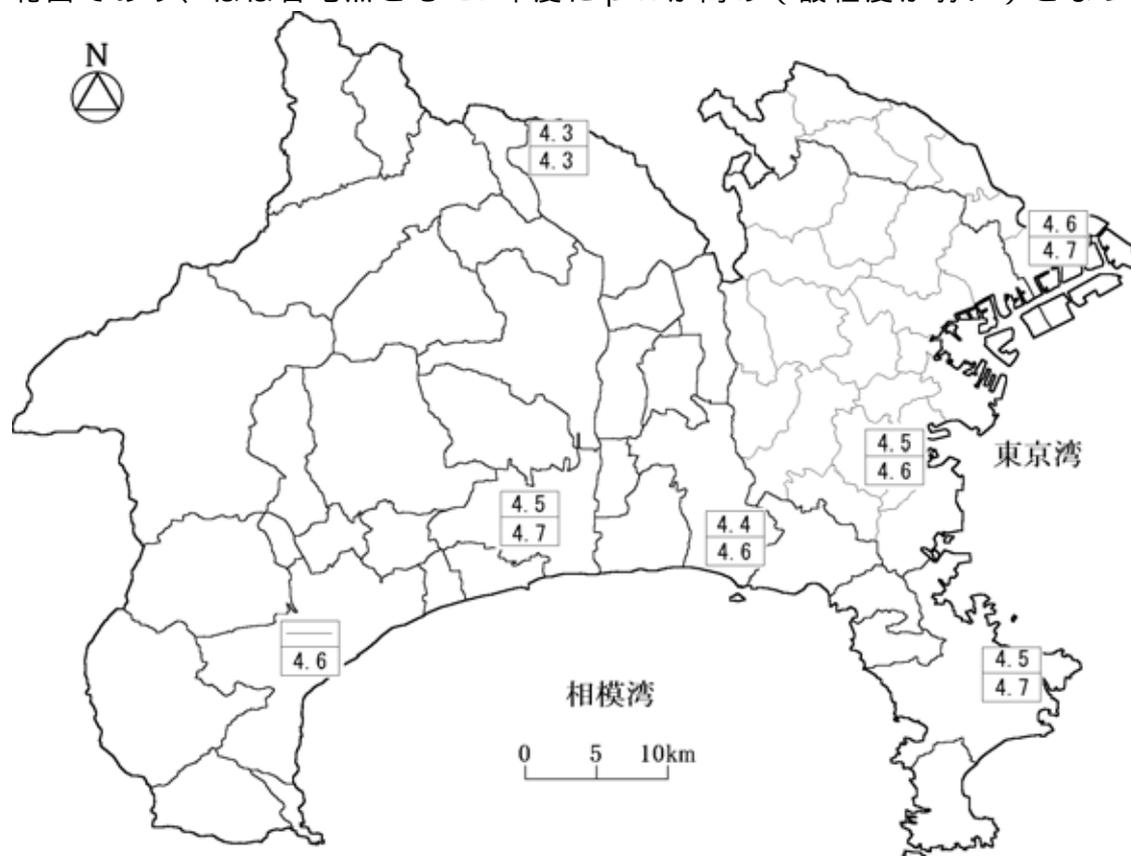
2 調査方法

雨水の採取は、「湿性沈着モニタリング手引き書」に基づき、自動採取装置により、原則として週単位で実施した。

3 調査結果

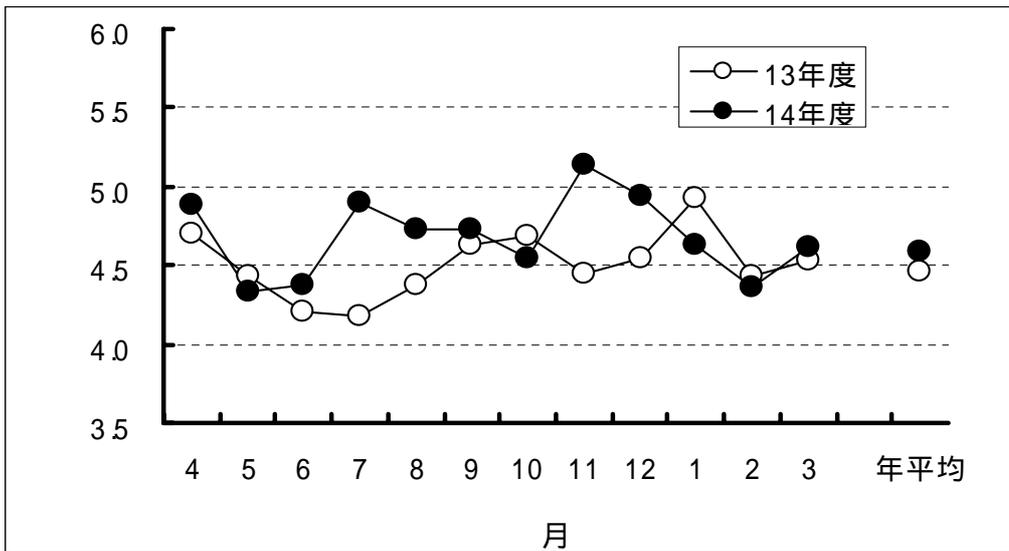
(1) 雨水pHの地域分布（年間平均値）

各地点における雨水のpH（年平均値）は、13年度pH 4.3～4.6、14年度pH 4.3～4.7の範囲であり、ほぼ各地点とも14年度にpHが高め（酸性度が弱い）となった。



数値は、県内7地点における13年度（上段）、14年度（下段）の全降水のpHの加重平均値を示す。

(2) 雨水 pH の月別推移 (月間平均値)

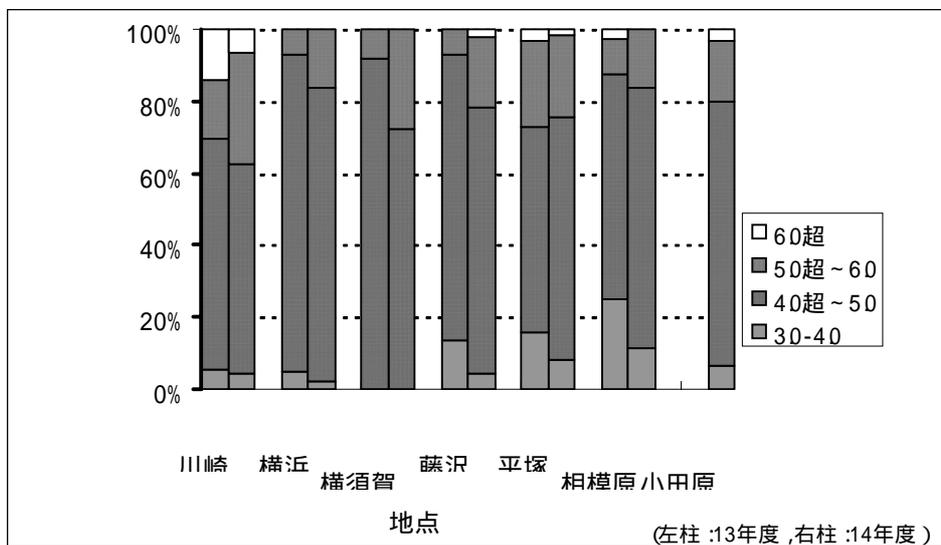


図には、各地点における雨水 pH の月間平均値より求めた 13 年度 (6 地点)、14 年度 (7 地点) についての pH 月間平均値を示す。

月間平均値は 13 年度 4.2 ~ 4.9 (年間 4.5)、14 年度 4.3 ~ 5.1 (年間 4.6) であった。

14 年度では、13 年度と比べ、夏期 (7、8 月) 及び冬期 (11、12 月) に高めとなった。

(3) 雨水 pH の強度範囲別出現割合



図は、各地点における 13、14 年度測定期間中の雨水 pH について、範囲別の出現割合を示したものである。

pH が 4.0 より低く酸性度の高い雨水は、13 年度に多く出現しており、相模原、平塚、藤沢で、他地点よりも多く観測された。各地点における pH 5.0 以下の出現割合は、2 年間で平均すると (小田原は 14 年度のみ) 横浜、藤沢、相模原、横須賀、小田原で 80 ~ 85 %、平塚で 74 %、川崎で 66 % であった。